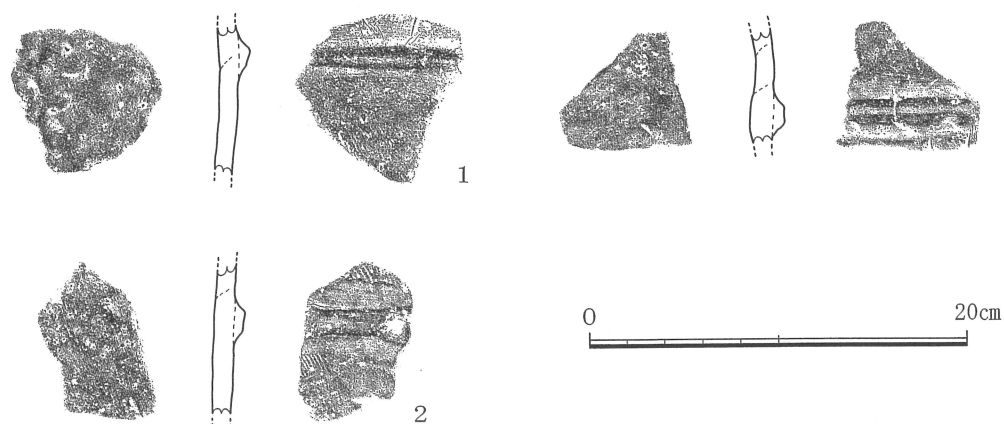




第44図 身狭桃花鳥坂上陵 出土品実測図 (1/4)

奈良県立橿原考古学研究所編『奈良県遺跡地図』第2分冊改訂、奈良県教育委員会、1984年。

- (3) 笠野 毅「昭和45年度 身狭桃花鳥坂上陵整備工事に伴う事前調査」『書陵部紀要』第41号、宮内庁書陵部、1990年。

笠野 毅「宣化天皇陵外堤止水壁設置区域の事前調査」『書陵部紀要』第29号、宮内庁書陵部、1978年。

飯倉晴武「調査の全容」『書陵部紀要』第39号、宮内庁書陵部、1988年。

土生田純之・福尾正彦「身狭桃花鳥坂上陵整備工事箇所の調査」『書陵部紀要』第41号、宮内庁書陵部、1990年。

陵墓調査室「調査の概要」『書陵部紀要』第53号、宮内庁書陵部、2002年。

懿徳天皇 畝傍山南織沙溪上陵見張所改築工事箇所の立会調査

懿徳天皇畝傍山南織沙溪上陵は奈良県橿原市西池尻町に所在する。近鉄南大阪線橿原神宮西口駅から北へ200mほど行った畝傍山の南麓に位置し、形状は山形である(第45図)。畝傍山から南方に派生した丘陵の先端部を利用したものと思われるが、畝傍山と本陵とは尾根続きではなく、本陵は独立した頂部を持っている。畝傍山と本陵との間の凹部が当初からの地形であるのか、あるいはいずれかの段階で人為的に切り離されたものであるのかについては、地形図や現地における観察だけでは判断し難い。陵本体側の等高線は人為的に切り離されたものとは見えず、仮に切り離しが行われているのであるならば、盛土もしくは削り出しによって大規模な修景が行われていることになろう。なお、本陵の所在地はいわゆる大藤原京内に含まれ、右京十条九坊西北坪および西南坪を中心とする箇所にあたる⁽¹⁾。

本陵における過去の調査事例としては平成11年度に実施した鳥居改築工事箇所の立会調査がある⁽²⁾。

今回の調査は一般拝所内に所在した見張所が経年のため老朽化し、改築されることになったため行ったものである。見張所改築箇所(長さ5.3m×幅5.0m×深さ0.3～0.4m)以外にも、浄化槽設置箇所(長さ3.2m×幅3.0m×深さ2.0m)や、排水管ほかの設置箇所(長さ約51m×

幅0.9～1.2m×深さ0.2～0.7m)、電気線設置箇所（長さ約38m×幅0.5～0.9m×深さ0.3～0.4m）など、関連する施設に伴う掘削があり、その全てに立ち会った（第46図）。浄化槽設置箇所の規模は通常よりも大きくなっているが、これは、後述するように土層が軟弱であったため、壁面の崩落がたびたびおこったことによる。調査期間は平成15年12月8日～11日の4日間であった。

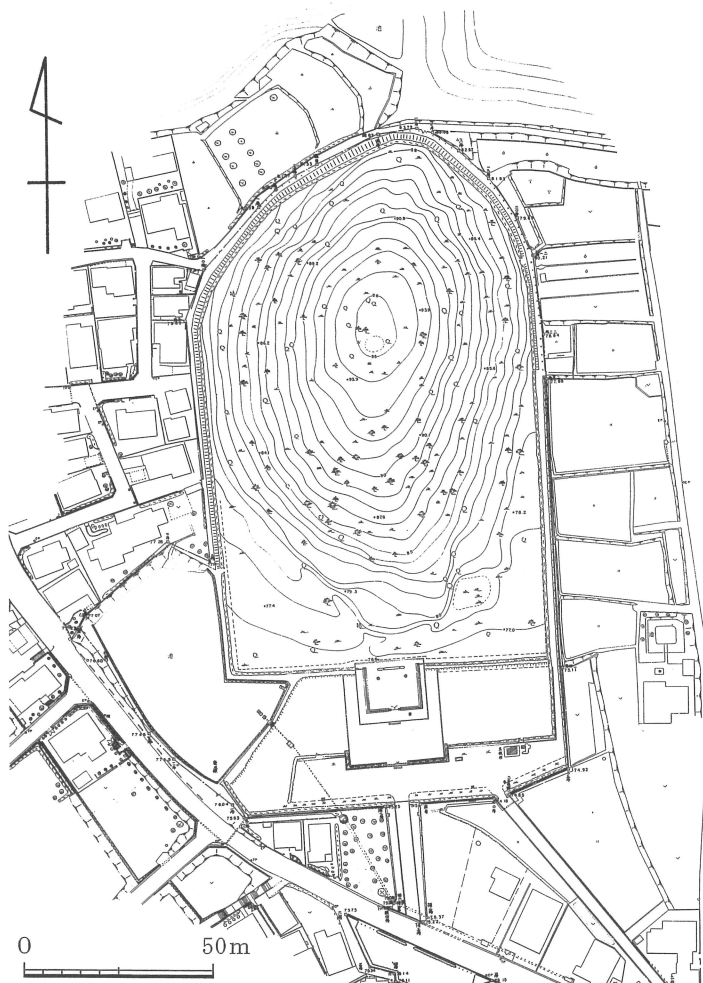
掘削箇所における土層は3層に大別される（第47図）。Ⅰ層としたものは拌所に敷かれた白砂などを含む表土層で、Ⅱ層としたものは拌所を造成する際の客土である。拌所造成にあたっては砂質土や粘質土など、多様な土を使用している。Ⅲ層としたものは青灰色を呈する粘土層で、湛水内に長期間にわたって堆積したものと思われるものである。

図示した見張所掘削箇所については、Ⅱ層およびⅢ層の細分を行っていない。これは、遺構が存在する可能性がほとんどないことに加え、非常に軟弱で絶えず崩落の恐れがあったためである。

掘削箇所のうち、Ⅲ層までおよんだのは浄化槽設置箇所のみであり、他の箇所はいずれもⅡ層内でとどまるものであった。今回の掘削範囲においては、何ら遺構、遺物の出土はなかった。

以上の結果を踏まえ工事は予定通りに施工された。

（有馬 伸）

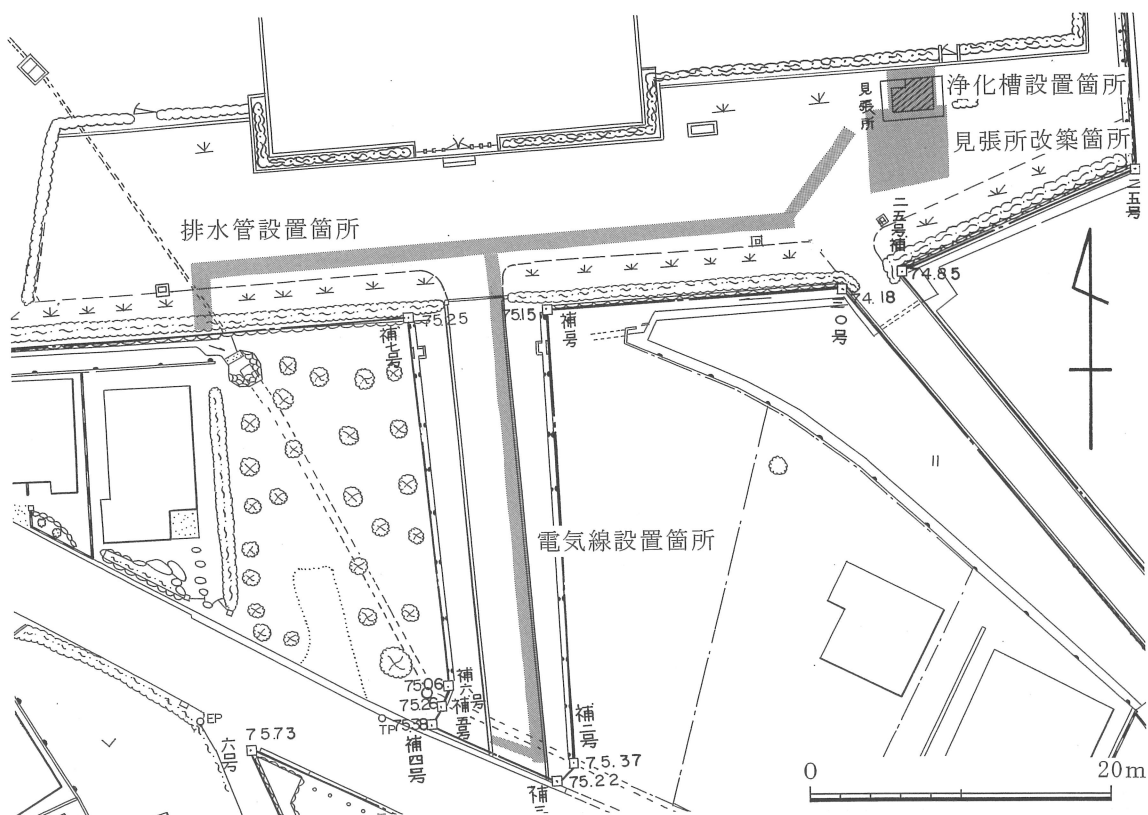


第45図 畝傍山南織沙溪上陵 地形図（1/2000）

註

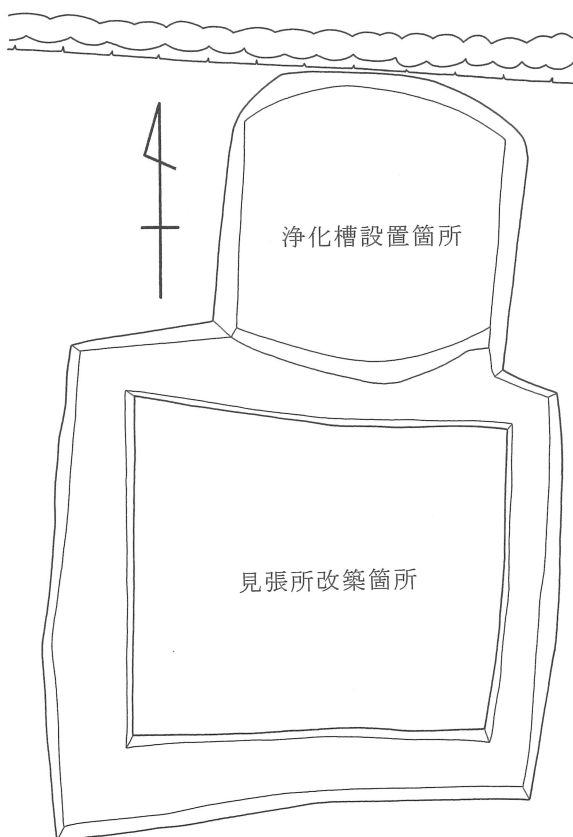
（1） 橿原市教育委員会編『橿原市遺跡地図』、1999年。

（2） 陵墓調査室「調査の概要」『書陵部紀要』第52号、宮内庁書陵部、2001年。

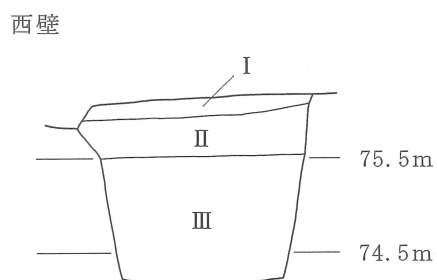
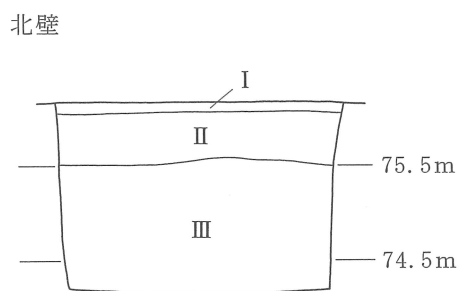


第46図 畝傍山南織沙溪上陵 調査箇所位置図 (1/500)

1 見張所改築箇所・浄化槽設置箇所平面図



2 浄化槽設置箇所断面図



第47図 畝傍山南織沙溪上陵 調査箇所平面図および断面図 (1/80)